

**高校1年 SS 探究Ⅰ「思考力トレーニング」**

6月からのSS探究Ⅰは、「思考力トレーニング」に取り組んでいます。論理的思考力を身に付けるために、根拠、論拠、推論についての理解を深めることを目的に学習を進めています。

6月15日6・7校時「根拠：データに基づいて考える」

「大崎市ミニ統計」の2021年と2010年を比較して、統計データからわかる事実を読み取りました。印象や感覚ではなく、探究活動に必要な「事実としての根拠」を読み取る力を付けていきます。

6月29日6・7校時「論拠：基盤となる価値観」

論拠と根拠、そして隠された論拠について班ごとに意見交換しました。他の班の意見をロイロノートで共有し、参考にしながら話し合いを深め、自分の考えをまとめました。

生徒の感想

「論拠と根拠の違いがわかった。」「隠された論拠を見つけ出すのが難しかった。」「主張と根拠の他に論拠があることではじめて主張が成立するということが新鮮だった。これからは意識して話を聞いたり文章を読んだりしてみたい。」



んこれまで思いつかなかったことが出てきて、探究活動がより良い方向にいくと思います。」

**おおさき小中学生自由研究チャレンジ
テーマ相談会**

今年度、古川黎明SSH事業の一環として立ち上げた「第1回おおさき小中学生自由研究チャレンジ(9月1日～14日・作品受付)」に向けて、小中学生に対するテーマ相談会を実施しました。

この事業は古川黎明SSH事業のめざす「大崎サイエンスコンソーシアム」構築を推進することをねらいとしています。地域の小中学生の理数学習や探究学習の促進を図ることで、SSH事業で得られる成果を地域へ還元する試みです。

相談会は、事前申込により、来校またはメールを通じて、7月22日～26日の間に実施しました。来校による相談は小学生7名、メールによる相談は小学生4名でした。

相談会には本校の生徒と担当教員が対応しました。担当教員からは、自由研究テーマの選び方、調査・研究の方法、資料・データの集め方・扱い方、まとめ方について、質問を受けてアドバイスしました。また、関連する情報や、大学や研究機関との連携の可能性などについても触れました。

相談会で対応した本校の高校生は、自分自身の課題研究や学習の経験を踏まえて、小学生の考えている研究テーマに対して感想やアドバイスを伝えました。研究内容に関することで中学校や高校の理科で学ぶことについては、どの段階で学習することなのかを小学生に説明する場面もありました。小学生の探究心の広さ、深さに高校生が驚かされる場面も多く、相談会に対応した高校生の学びにもつながる良い機会だったようです。

参加エントリーも受付中です(QRコードを再掲します)。現在エントリーをいただいている研究も、理科分野のものだけではなく、社会問題に関する内容も見られ、これからやって来る応募作品が楽しみです。



参加エントリーフォーム



おおさき小中自由研究 Web

**高校1年 SS 探究Ⅰ「プロローグ講演会」**

社会で求められる探究する力

～ビジネスの視点から考える～

7月6日(火)に、日本政策金融公庫 国民生活事業本部 東北創業支援センター所長の今井祐之氏をお招きし、ビジネスの視点から「社会で求められる探究する力」について講演いただきました。

人が求めるものは時代、環境、年齢、ニーズによって変化するという、世の中の課題を解決するのがビジネスであるということワークショップなどを通して学びました。この講演で、それぞれが今後の探究学習のヒントを得られた様子でした。今井さん、ありがとうございました。

生徒の感想

「ビジネスのタネは身近なところにあることが印象的だった。振り返ってみると、身の回りには、不便に感じることで、向上させるべき点が多いように思われた。これからの生活では身の回りにはあるタネを発見していきたい。」「このビジネスアイデアの発想は、今後の探究活動で、他の人から出た意見をもとに掛け合わせるところに活かされると思いました。そのようにすると、どんど